

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	どんぐり発達支援寒川		
○保護者評価実施期間	2024年9月1日		～ 2024年9月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	家庭数22	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2024年9月1日		～ 2024年9月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2024年11月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	0～2歳児5名定員の家庭的保育室との、併設事業所である。	保育室が同じ施設内にあることで、職場内に0歳児からの子どもの笑い声が響くなど、より温かみのある雰囲気生まれている。これが職員同士のコミュニケーションを促進し、チームワークが強化されることにも繋がっている。	2施設合同で、保護者も含めて参加できるイベントを定期的で開催することで、職員同士の絆をさらに深める。夏祭り、クリスマス会、お別れ会など、職員同士のチームビルディングで、リラックスした雰囲気の中でコミュニケーションが取れるようにする。
2	保育士の専門性を持ち、きめ細かい観察と支援が可能。	保育室のスタッフと児童発達支援の専門スタッフが密に連携を取ることで、より発達に関する理解が深まり、質の高い支援が可能となっている。	保育士と発達支援の職員が定期的に情報共有し、子どもの発達段階に応じた最適なアプローチを協力して行っていく。
3	小規模・小集団の環境で手厚い支援を行い、地域の安心感につながっている。	児童発達支援が保育室の近くにあることで、子どもが成長していく過程で必要なサポートを長期的に受けることができる。社会性や生活力を学びながら、発達支援を通じて、言語や認知面、運動面の発達をさらに支援でき、スムーズに次の発達段階に進むことができる。	地域密着で、子どもたちが日常的に多くのひとと接する機会を作っていく。家庭での発達に関する不安や問題を、地域全体で早期に発見し、早期に発見された課題に対して、すぐに児童発達支援を通じて、子どもの発達を最適にサポートしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所までの階段が不便。室内が1部屋で、職員数も多いことで狭い。	階段での送迎が不便である。手厚い職員配置で、支援の充実を図っている。	駐車場を近接地に確保することにより、負担を軽減出来るようにしている。室内の整理整頓を心がけ、段差を使っての収納を取り入れている。子どもたちが屋外で過ごせる時間を増やすことで、室内の圧迫感を減らすことができると考え、季節に応じた屋外遊びや学習活動を行っている。
2	地域に児童発達支援センターが無く、他事業所との連携が限定的になっている。	地域の課題	地域の既存機関や近隣事業所と連携し、定期的に情報交換を行行っている。地域の家庭や他の支援機関との交流を深めるために、イベント開催やワークショップ等に参加する。活動内容や支援の取り組みをおたよりの発行、SNSやウェブサイトを通じて発信し地域の関心を引き、保護者や関係者が活動に関心をもちやすくする。
3	保護者支援	保護者会の開催時期	他の保護者との情報交換や支援の輪を広げるために、利用の保護者同士も互いに支え合えるような関係作りをしていく。保護者会での学区域地域別のグループトークは、好評だった。